NMC　30年9月例会の御案内

39期の掉尾を飾る**NMC9月例会は、9月21日(金)18:30から高円寺北区民集会所**(第４と５会議室)で開催しますが、**秋山弘子・東大高齢社会研究機構特任教授を招聘して、「長寿社会の課題と将来性」(仮題)と題して講演(70分)**をしていただき、その後に質疑応答(30分)で理解を深めたいと考えています。終了後に、恒例により**有志の懇親会**を近くの居酒屋で開催します。

秋山先生は、昭和37年岡山朝日高校卒、東大教育学部卒後に米国の国立老人研究所フェロー、ミシガン大学教授、東大教授、日本学術会議副議長等を経て、2009年より現職。老年学の講演は多数こなされており、分かりやすい講演をされるので有名です。

皆様の周辺にも100歳前後の人が増えてきたのではないでしょうか。高齢者の概念は、65歳からではなく、後期高齢者といわれる75歳からに見直すべきではないかという意見も出始めています。所謂“人生100年時代”がきましたので､多様な人生設計が可能になり、多毛作的人生も可能な時代になったのです。人口の高齢化で、社会のインフラ(ハードとソフト)の作り直しが必要です。超高齢化社会に対応した産業の創生市場は大きいでしょう。社会全体の支え合い構造の見直しが必要になってきています。何をなすべきでしょうか？　**(1)**自立期間(健康寿命)の延長、**(2)**住み慣れたところで日常生活の継続を支える生活環境の整備、**(3)**人のつながりづくり、・・・・が必要でしょう。倍になった人生は、**①**「人生50年時代」から「人生100年時代」になり、**②**定年後は「余生」といった時代から「セカンドライフ」と名を変える時代になったのです。全員参加・生涯参加の時代になったのです。また。高齢者は栄養状態の改善と医療の進歩で、若返っています。就労の場を創る、セカンドライフの新しい生き方を考える必要があります。健康長寿社会実現のためには、**①**栄養(食と口腔機能)と**②**身体活動(運動と社会活動など)と**③**社会参加(就労、余暇活動とボランテｲア)の3つの柱が不可欠です。秋山先生は、産学官ネツトワークを駆使して、柏と鎌倉の二つのコミュニテｲで膨大な事例をもとに社会実験をされておられます。そこで得た豊富なデータをもとに、老年学の分野では示唆に富む数々の提言をされてきておられます。こんな講演(70分)をお聞きし、質疑応答(30分)で理解を深めてください。今回は2部屋続きの部屋を仮予約し、計40人の座席を確保していますので、多くの方の参加をお待ちしております。終了後に、有志の懇親会(参加費2,500円)を開催します。**有志の懇親会への申込は受付時にお伺い**します。

NMC会員の**参加費は無料**｡**非会員の参加費を500円**と格安にしていますので、この機会に知人等をお誘いください。**非会員の方は、会員を通じて申込**ください。ただし、準備の都合上、NMCのHP([www.nmcnmc.jp](http://www.nmcnmc.jp/))の“参加申込”欄を通じて**出席登録**をお願いします。HPに慣れていない方も、この機会に挑戦してみてください。操作が、上手くいかない時には、理事等に気楽にお尋ねください。

**NMC理事長　小川啓介　(9月例会の幹事：石村・立川理事)**